

平成二十九年 度 一 般 入 学 試 験

# 国 語 科 問 題 (A 日 程)

第 一 問 ～ 第 三 問 基 礎 問 題 (四 十 分 ・ 百 点)

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、この問題冊子は、十ページあります。
- 三、試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 四、答は問題の指示にしたがって、解答用紙(マークシート)に記入しなさい。
- 五、試験終了後、この問題冊子も集めますので下に受験番号を記入しなさい。

受験番号

A

国

基 礎

英 ・ 情 ・ フ ・ 技

第一問 次の問一～問三の漢字や熟語など、語句類に関する問いに答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナと同じ漢字を用いている語を、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 仲直りの良いキ会だ。

- ① 記者
- ② 期末
- ③ 機能
- ④ 器楽
- ⑤ 季節

2 車の運転にはサイ心の注意が必要だ。

- ① 再会
- ② 最大
- ③ 栽培
- ④ 災害
- ⑤ 繊細

3 パソコンの保シユ点検を行う。

- ① 特殊
- ② 主人
- ③ 攻守
- ④ 首相
- ⑤ 取材

4 カン謝の心を持ち続けよう。

- ① 肝臓
- ② 觀光
- ③ 警官
- ④ 感覚
- ⑤ 会館

5 壁に絵画をコ定した。

- ① 固有
- ② 自己
- ③ 故郷
- ④ 古来
- ⑤ 個人

問二 次の1～5について、【】内の意味の四字熟語になるように、□に入る漢字として適切なものを、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 大同小□

【細かい点では違っていても全体としてはだいたい同じであること】

- ① 意
- ② 異
- ③ 以
- ④ 位
- ⑤ 移

2 意气□合

【互いにぴったり気が合うこと】

- ① 到
- ② 投
- ③ 等
- ④ 当
- ⑤ 頭

3 一念発□

【成しとげようと決心し、行動に移すこと】

- ① 希
- ② 喜
- ③ 気
- ④ 期
- ⑤ 起

4 自由奔□

【自分の思う通り気ままにふるまうこと】

- ① 放
- ② 法
- ③ 方
- ④ 報
- ⑤ 包

5 完全無□

【全て満たされていて、立派な様子】

- ① 結
- ② 決
- ③ 潔
- ④ 欠
- ⑤ 穴

問三 次の1～5について、【 】内の意味のことわざ・慣

用句になるように、□に入る漢字として適切なものを、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 □を売る

【自分のことが世間に知れ渡るようにすること】

- ① 口 ② 名 ③ 手 ④ 目 ⑤ 声

2 二の□を踏む

【前に進むのをためらうこと】

- ① 耳 ② 髪 ③ 背 ④ 指 ⑤ 足

3 根も□もない

【裏付ける根拠が何もない様子】

- ① 葉 ② 土 ③ 花 ④ 茎 ⑤ 種

4 □に出る

【気持ちや感情が表にあらわれること】

- ① 腹 ② 腰 ③ 顔 ④ 胸 ⑤ 肩

5 敵に□を送る

【敵対している相手が困っている時に援助すること】

- ① 銀 ② 塩 ③ 米 ④ 水 ⑤ 麦

第二問 次の文章を読んで、あとの問一～問六に答えなさい。

きのうは、とうとう郵便が来なかった。朝から何度、郵便受けをのぞきに行ったらかشれない。きのうは月曜。前日が日曜だから郵便の配達がない。きょうも郵便がこないとなると二日続けての休配である。世の中が暗くなったような気がする。

ふだんうちにいるとき、郵便の来る時刻になると、そわそわする。ものを書いていても気が散る。コトリと玄関の方で音がしたように思うと、郵便だ、と書きかけの文章をほうり出して飛んでいく。空耳ということが多いが、ときに、配達さんと鉢合わせになることもある。『どうも、ありがとう』と言うから配達さんも、うれしそうである。

1 昔、イギリスの少年が、将来いちばんになりたいものはなにか、と訊かれて「ポースト・マン」（郵便配達）と答える、という話をきいて、たいへん親しみを覚えた。おそらく、郵便を待つ人たちの間で育ったのであろう。イギリスは文句なく、世界一の郵便好きの多い国である。

そのイギリスでの話。独立して両親とは別々に暮らしているひとり子がときどき両親をたずねる。夕食をして帰る。帰った息子はその夜、寝る前に、両親にあてて、今夜はご馳走さま、また近いうちにおじゃまします、といった礼状を書く。親の方も負けてはいない、夫婦別々に息子あてに手紙を書く。よく来てくれました。たいへんたのしかった……また、

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

なるべく早いうちにおいでください、といったメールである。それを<sup>2</sup>“うらやましい”と言って、ニューヨーク・タイムズに書いたアメリカ人女性があった。私はそれを読んで、何ともいえない美しいものを感じた。

日本も昔は筆まめ、といって、よく手紙を書いたものだが、電話が普及してから<sup>※</sup>筆不精が多くなった。ものを貰った人が礼状を出さない。電話で相手呼び出して、お礼を言うのが、どんなに失礼であるか、知る人がすくない。礼状を書かないくらいだから、ひとにものを贈るときに案内をしなくてはいけないことも知らない。デパートなんかに頼んで<sup>3</sup>送りつけるのである。昔は、案内のない贈りものは受け取らないのが常識だった。どんな危険なものかわからないという用心もあった。

ときに得体の知れない荷物があつたりして事件になる。きちんと、手紙を出していれば、振り込め詐欺などにひっかかることもすくなくなるに違いない。

私は、目を悪くして、字を書くのが不自由になったから、もっぱら郵便を待つようになり、手紙はがきを書くのはよくよくのときである。かつては、むやみに書いた。自分では気がつかなかったが、はがきだけでも年に八百枚くらい書いていたらしい。この地区の本局、はがきをよく出して感心だと言つて、一日局長のようなものにしてくれて、あとでご馳走になったこともある。二百枚包みのはがきを度々買うので目立ったらしい。

かつての私は（a）はがきを書いた。

はがきは手紙ではない、<sup>※</sup>信書でもない、ということを知っているが、封筒、便箋、切手をそろえないと始まらない手紙は、忙しいときには、不便である。はがきなら半分の手間である。しかし、目上の人へは遠慮する。礼状もはがきは、（b）親しい間ならともかく、失礼であるという心得はもっている。若い人が電話で礼など言ってくるのを好まない。注意したことがあって、学生から、“あの先生、電話すると、怒る”という流言が広まったこともある。おかげで夜、電話をかけてくるような不心得な学生はなくなり助かった。

電話は便利だ、というが、それはかける側のこと。受ける側からすれば、迷惑の方が多い。せつせと文章を綴っているようなとき、けたたましいベルがなる。ほうってはおけないから受話器をとってみると、「お墓を売り出している〇〇寺です。いかがですか」などという売り込みだったりする。こちらはいつ墓へ入ってもおかしくない年である。縁起でもないことを言っただけでほしくない。ガチャンと乱暴に受話器を戻して、怒りをしずめる。

（中略）

若い人たちが、毎日のように電話をかけ合っていると、（c）ケンカになる、というからおもしろい。キカイだから、人情に欠けるところがあつて互いに傷つけ合うようなことを話すことになりやすいからだろうか。親しい人が手紙でケンカを始めるのは容易ではない。電話はケンカするにも便利である。

前にもものべたが、はがきは手紙と違って、信書ではない。ひとが見ることを覚悟しなくてはいけない。手紙には信書の秘密を求めることができるけれども、はがきは秘密を守ることはできない。それなのに、手紙とはがきをいっしょにして「手紙」という言い方が広まっている。<sup>5</sup> 適当でない。郵便局もはっきり区別していないようで心細い。両方をひっくりめることばがないから郵便とするほかはない。郵便局は、毎月二十三日を「ふみの日」としている。大いにメールを拡大したいらしいが、「ふみ」はいかにも古い。メールなら若者の好みだけれども、いま、メールは、手紙やはがき以外の通信の意味になっている。はがき、手紙をひっくりくる新しいことばがほしい。それまでは郵便でがまんするしかないか。(外山 滋比古『知的生活習慣』(筑摩書房)より。一部省略がある。)

〔注〕

- ※ 筆不精⇨手紙などを書くのを面倒くさがる人。
- ※ 案内⇨贈り物を送る際に添える手紙。
- ※ 信書⇨個人に送る封書の通信文。

問一

傍線部1「昔、イギリスの少年が、将来いちばんなりたいものはなにか、と訊かれて『ポスト・マン』（郵便配達）と答える、という話をきいて、たいへん親しみを覚えた」とありますが、その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 筆者も小さい頃に郵便配達をする人の制服姿に憧れあこがていたので、少年の気持ちが理解できたから。
- ② イギリスが世界有数の郵便好きの国であることの紹介として、少年の話はよい例だと思ったから。
- ③ 少年は郵便を心待ちにしている筆者のような人々の中で育ったのだらうと思いい共感したから。
- ④ 郵便物を待っている人へ喜びも一緒に届けたいと答えた少年に、大人びたものを感じたから。
- ⑤ 身近な仕事に興味を持って、そこから世界を広げてゆく少年に、筆者は過去の自分を重ねたから。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

問二 傍線部2 「ッうらやましい」と言って」とありますが、

どんな点について、そう述べているのですか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 郵便を大切にしている文化が継承されている点。
- ② 夫婦の仲の良さがよく示されている点。
- ③ 三人が個人として交流を持っている点。
- ④ 親子が郵便の利用に貢献している点。
- ⑤ 親子であるが礼儀を大切にしている点。

問三 傍線部3 「ッ送りつける」という表現にはどのような印象を与える効果がありますか。その説明として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 送り手が、気がつかないまま非礼をはたらいていることを強調する効果。

② 送り手が、手間を省くのも仕方がないと考えていることを暗示する効果。

③ 送り手が、自分の都合を優先していることを印象付ける効果。

④ 送り手が、デパートまかせにしていることへの非難を表す効果。

⑤ 送り手が、贈り物をするのに作法に従わないことへの不満を表す効果。

問四 空欄（ a ） 、（ b ） 、（ c ） に入る最も適切な語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。ただし、各選択肢は、一度しか使えないものとします。

- ① まったく
- ② もっぱら
- ③ しばしば
- ④ よほど
- ⑤ たまたま

問五 傍線部4 「受ける側からすれば、迷惑の方が多」とありますが、そう感じる理由として最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 集中して行っていた仕事が中断され、しかも電話の内容に必要性があるものはほとんどないから。

② 友人と話す楽しさのために時間を忘れて話し込み、長電話になってしまふことが多いから。

③ 電話でお礼を言われるのはもともと好きではないので、それをされると怒らざるをえないから。

④ 電話だと顔が見えないのでつい言い過ぎてしまい、相手と長い言い争いになることがあるから。

⑤ 仕事がかどらない時に電話が来ると、それを言い訳に自分を甘やかす仕事から逃げてしまふから。

## 問六

傍線部5「適当でない」とありますが、筆者がこう述べる理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① はがきの手軽さをアピールし、より多くの人に利用して欲しいと思っているから。
- ② 二つのものをひとまとめにして呼ぶ人の、言葉への意識の低さを指摘したいから。
- ③ 誰かに読まれるかもしれないものとしてそうでないものとは、区別されるべきだと考えるから。
- ④ 両方を区別しないでいるうちに、手紙の嚴重さが失われることを心配しているから。
- ⑤ はがき愛好家である筆者としては、はがきが手紙と一緒にされるのは不愉快だから。

## 第三問

次の文章を読んで、あとの問一～問六に答えなさい。

主人公の私は、イタリア製の一流ブランド靴販売会社の新社員である。ある日、開店直前に、店員の誰かが、靴の値札を付け間違え、その上、価格表もなくなっていた。輸入先の会社から価格表がファックスで届くのを待って、私は、店長から価格表で靴の値段を確認するよう言われた。

値札は予想通りだった。すべて合っていた。おかげで早く終わったのだ。

「終わりました」と振り向いたとき、吉井さんはもう事務所にいなかった。店長が驚いたように顔を上げた。

「ずいぶん早かったわね」

そうして机の前からこちらへまわり込んできて、私をまっすぐに見た。

「価格表を見て値札を付けたんじゃないわね。あなたは最初から値段を知っていた。そうでしょう」

まずかった、というのが率直な思いだった。疑われてもしかたがない。新しい価格表が届く前に、わからなくなってしまうのは値札と商品を正しく組み合わせただ。誰が価格表をなくしたのか、値札がどうして入れ替えられていたのか、店じゅうが疑心暗鬼になっているときに。

「はい」

「……どういうこと？ あなたが絡からんでいるとは思わな

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

かった」

「私はどこにも絡んでいません。靴の値段は、ただわかるんです。でも価格表でちゃんと確認しておきました」

店長はしばらく黙って私の顔を見ていたけれど、やがて表情をゆるめた。上がっていた肩がゆっくりと落ちた。

「どうしたものかしら」

それから、私を見たまま微笑んだ。

「私もね、わかるのよ、値段。おおよそなんだけどね。そりゃあ二十年もこの仕事をしているわけだし、発注するとき<sup>\*</sup>に現地価格を見てるんだし。でも、あなたは どうして」

「どうしてだか、自分でもよくわからないんです」

店長はまだ私をじっと見ている。何か言わなくちゃいけないと思った。でも、言うべきことが見つからない。

「値段がわかるということが、どういうことだか、わかるかしら」

私は黙って首を振る。ほんとうは、わかっている。値踏みできるということは、少なくとも靴に惚れてはいないということだ。店長は笑って私の肩を叩いた。

「ものを見る目が養われているということなんだから、ほら、もっと自信を持ちなさい」

そうしてゆるやかに両腕を組む。

「たしかに、あなたは人一倍熱心だった。ものすごい勢いで仕事を吸収してくれた。だけど、値段がわかるようになるにはまだまだかかるはずなの。もし秘訣があるのなら、教えてほしいくらいよ」

「いえ、そんな、全然」

私は口ごもった。靴を愛していないからです、と口走りそうになってしまった。入社して以来、ほめられることなど一度もなかった。謙遜するよりほかにどんな態度を取ればいいのか見当もつかない。

「それはともかく——」

店長の視線が値札を付け終えた靴へ注がれた。

「これを片づけてしまわないと」

「はい」

吉井さんの姿が見えない。でも今はこっちを片づけてからだ。壁の時計を振り返った店長が言った。

「売り場を見てきてくれるかしら。お昼前だし、今ならお客様も少ないと思うわ。今のうちに運べるかもしれない」

「はい」

そこからは早かった。接客中だった中村さんを売り場に残し、他のスタッフ全員で靴を運んだ。もともと一度は店頭<sup>あ</sup>に並べてあったものを今朝になって慌ただしく撤収したのだ。スペースはじゅうぶんにあった。ブランドごとに区分けされた棚にそれらを置いてしまうと、なんとか形は整った。——整いすぎてしまった違和感だけがひんやりと漂っていた。

「ありがとう、みんな。無事に済みました」

店長は事務所に戻ったスタッフ全員に声をかけ、最後に私に向かつて微笑んだ。私は微笑み返さなかった。代わりに、意を決して口を開いた。



「並べ方を変えてみてはどうかと思うんです」

店長は微笑を仕舞った。

「どの棚の」

「全部です」

中村さんも、三津井さんも、それに今日出勤している蓮田さん、平野さん、小宮山さん、それぞれが息をひそめるように私たちのやりとりを見ている。

「それは、あなたの個人的な意見？」

「はい」

はい、と言いながら、自分の言っていることが信じられない。違和感を持ちつつもやり過ぎないほどではなかった。

自信を持っていいと店長に言われたことがこんなふうに作用しているのだとしたら、私はとんだお調子者だ。

「それなら、ミーティングのときに聞きましょう。次回はいつだっけ」

チーフはいなかった。店長は左手の人差し指で左側のこめかみをとんとんと叩いた。

「来週の木曜ね。ディスプレイの案があるならそれまでにまとめておいて」

「はい」

スペースの空いた棚や台を見ていて、不意に思いついたのだ。案といえるほどの案ではなかった。ただ、今のように靴がブランドごとに整然と分けられてしまっているのは得策ではないとずっと思っていた。ここはショールームではない。

店長や、スタッフたちの意向がディスプレイにもう少し反映されていてもいいのではないか。

とはいえ、キャリアもなく、まだまだ裏方仕事の多い私がディスプレイに口を出すなんて厚かましいとも思う。自信など持ちようもない。案をどうまとめればいいのか、すでに気弱になりながら持ち場に戻ると、三津井さんが近づいてきてささやいた。

「よく言った」

「はい？」

「ディスプレイ変えたいって、絶対、みんな思ってた」  
それだけ言って親指を立てると、また、すっと離れていった。

(宮下 奈都『スコアレス』(光文社)より。)

〔注〕

- ※ 発注⇒注文を出すこと。
- ※ 惚れる⇒たまらなく好きということ。
- ※ 謙遜⇒遠慮して控え目にする事。
- ※ ディスプレイ⇒展示方法。陳列方法。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

問一

傍線部1「上がっていた肩がゆっくりと落ちた」とありますが、それは店長のどのような気持ちを表していますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 自分が値札の付け間違いをしていたことに気づいて恥ずかしくなったということ。
- ② 「私」がしっかりと靴の値札を価格表で確認できたので、安心したということ。
- ③ 「私」を一度疑ったが、ひとまず「私」の言うことを信用しようとしているということ。
- ④ 靴の価格はすべて合っていて、責任をとる必要がなくなったのでほっとしたということ。
- ⑤ 「私」が靴の価格を、価格表を見ないでつけられたことを疑問に思わなかったということ。

問二

傍線部2「ゆるやかに両腕を組む」とありますが、それは店長のどのような気持ちを表していますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「私」が価格表を持っていたことを、自分に知らせなかったことに疑問を感じている。
- ② 「私」がどうしても価格表を見ないで靴の値段がわかるのか、あらためて聞きたいと思っている。
- ③ 靴の値段がすべてわかるようになった「私」が自信のない態度だったのでがっかりしている。
- ④ 価格表で確認した「私」を、仕事が誰よりも熱心な人だと判断し頼もしく思っている。
- ⑤ 自分は長年かけても靴の価格に自信がないのに、なぜ「私」がわかるのか信じられなく思っている。

問三

傍線部3「意を決して口を開いた」とありますが、その本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① あせりつつもしっかりと意見を言った。
- ② 余裕をもってわかりやすく提案した。
- ③ 怒りをあらわにして思いをぶちまけた。
- ④ 一度は疑問に思ったことを口にした。
- ⑤ 今しかないと思いい切って考えを述べた。

#### 問四

傍線部4「微笑を仕舞った」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① スタッフ全員が売り場に商品を並べてくれて、仕事が終わったとほっとしたから。
- ② 「私」が靴を売り場にすべて並べたことに対して、どうしても納得がいかなかったから。
- ③ 他のスタッフが売り場に靴を並べている最中に、「私」が話しかけてきて不快に感じたから。
- ④ 売り場に靴をまだ並べ終わっていないと、急に「私」に指摘されてびっくりしたから。
- ⑤ 靴を売り場にならべて一息ついたのに、突然「私」が意外な提案をしたことに驚いたから。

#### 問五

傍線部5「私はとんだお調子者だ」とありますが、これはどのようなことを言っていますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 店長に自信を持っていいと言われたことを本気にし、大胆に提案する軽率な人間だということ。
- ② 自分の意見に違和感をもっているにもかかわらず、それを口にする思慮のない人間だということ。

#### 問六

傍線部6「よく言った」とありますが、この言葉は三津井さんのどのような気持ちを表していますか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① たいした提案でもなかったのがっかりする気持ち。
- ② 店長を不快にさせたのではと心配する気持ち。
- ③ 勇気をもって店長に提案した私をほめたい気持ち。
- ④ しゃばりな提案をした私をたしなめる気持ち。
- ⑤ 思い切って店長に話した私をうらやむ気持ち。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

